

# 「湯沢版MaaS Phase2」の実証運行（湯沢町）

補助金	補助率	補助上限額
令和7年度「交通空白」解消等リ・デザイン 全面展開プロジェクト	2/3	1億円

## 事業実施主体

【実施主体】 湯沢版MaaS推進協議会

【運行主体(事業者協力型)】

越後交通、ゆざわ魚沼タクシー、小千谷観光バス他

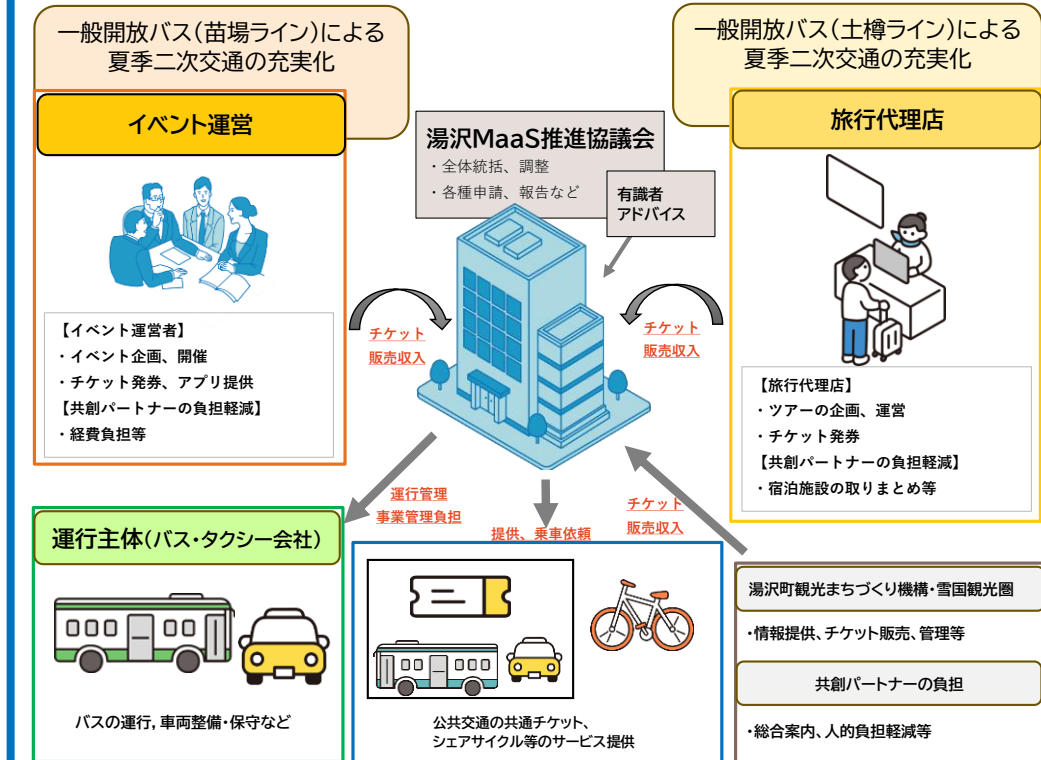
## 地域の課題

- ・ 路線バスは繁忙期以外のニーズの少なさにより運行頻度が少ない。また、運転手不足によりダイヤを拡充できない。
- ・ 宿泊施設のバスは主に宿泊施設が自主運行しており、人手不足や高齢化により今後の運行が困難になることが予想される。
- ・ 観光施設のバスは、繁忙期しか運行されないほか、途中乗降の制約や法的な問題もあり町民の利用はできず、利便性を享受できない状況にある。

## 実証事業の内容

- ・ 観光客（リゾートマンション利用者含む）、住民の交通手段を確保するため、複数の交通事業者と連携し、イベント期間中のシャトルバスを苗場ラインとして、宿泊施設バスを土樽ラインとして、運行を本協議会が担うことで有料化するとともに、誰もが乗れるように一般開放する。
- ・ 輸送資源を集約化することで生じる人員・車両を活用して循環バスを運行する。
- ・ 湯沢中学校生徒の提案であるトゥクトゥクをグリス口として無料運行する。
- ・ 日本版ライドシェア、シェアサイクル、カーシェアなど多様なモビリティの情報を一元的に周知し、地域内移動の利便性向上を図る。

## 事業全体像、共創の仕組み



## 今後の展開

- ・ 令和8年度も継続予定。南魚沼市との連携や新たな交通モードを追加する。
- ・ 湯沢町の繁忙期である冬季の公共交通充実のために夏季に実証し、後年の本格実装を目指す。
- ・ 歩行者や自転車利用者の環境整備にも努める。